

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2570700340
法人名	特定非営利活動法人 ゆうらいふ
事業所名	グループホーム すいれん
訪問調査日	平成 19 年 9 月 28 日
評価確定日	平成 19 年 10 月 20 日
評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2570700340
法人名	特定非営利活動法人 ゆうらいふ
事業所名	グループホーム すいれん
所在地	滋賀県守山市川田町988-1 (電話) 077-581-4607

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	大津市和邇中浜432番地	平和堂和邇店	2F
訪問調査日	平成 19年 9月 28日	評価確定日	平成19年10月20日

【情報提供票より】(平成 19年 10月 1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	10 人	常勤	3 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 3.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	44,000 円	その他の経費(月額)	29,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	6 名	男性	2 名	女性	4 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.1 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤本クリニック 小西医院 守山市民病院 津曲歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営母体のNPO法人「ゆうらいふ」は居宅介護支援事業所とデイサービスを運営し、グループホーム「すいれん」は閑静な住宅街にある。木造住宅を改造して1階4人と2階2人の6人が文字通り家庭的な生活をしている。開設4年目を迎え隣にはデイサービスも併設、居宅介護支援事務所も新設され介護の窓口が大きく広がり、地域住民の来所も多くなってきている。春夏の地域のお祭りにも参加し、保育園児との交流を計るなど地域密着の成果も上がっており、入居者の表情は明るく生き生きしている。また常勤の看護師がいる為医療関係の連携も充分出来ており、終末期の対応も職員全員が当然と考えているアットホームなグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回指摘を受けた周辺地域へ理解と協力を得る為、広報を発行してPRすると共に保育園児との交流も始まり、職員は自治会の夜回りや春夏のお祭りにも参加、地域住民から季節の野菜や果物の差し入れが有り地域密着の成果が上がっている。更にこれからは地域の人とお茶会の開催も検討されている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価も全員が参画し、最重点の取り組みは終末期に向けて全職員の一致協力体制を作りあげることであるとの合意を得、その為にも全職員が緊急時の対応が適切に行えるように腕を磨くことの取り組みを始めている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	着実に2カ月毎に開催されており、これまで討議されたことは感染症の対応、事故への対応、受け入れ研修生の質的向上への取り組み等があり、これからの取り組みは老人会への出前講座と自己評価、外部評価を公表して検討して貰うように計画されている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が来所された時に現状の報告をし意見や苦情を聞きだす努力をされている。家族会で常に問いかけ何でも言って貰える様な雰囲気作りをしている。運営推進会議に家族の方も参加され、意見を出して貰い運営に反映されているが、更に意見を出して貰うように家族への働きかけを期待したい。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の人から季節の野菜や果物の差し入れが有り、駐車場も無償で貸して貰ったり、散歩の時には声をかけて貰ったりと、良好な関係が出来上がりつつ有る。この関係を継続向上させる為にも「事業所便り」を毎月発行して家族や関係者、地域の方々に配布されることを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域の中で地域住民の一員として、その人らしさを活かしながら暮らしてゆける理念ができており、地域に暮らすオジイちゃん、オバアちゃんとして溶け込んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲示して職員は共有し、日々の活動を通じて心がけ実践するよう努力している。	○	訪問者にも理念を理解して貰える様に玄関に大きく掲示し、また職員全員にカードにして渡し常に身に付け、何時でも見られるようにすると共に、現在使用されている各書類の余白に記入して常に目に触れるようにすることなども検討して欲しい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会の総会に出席し、春夏のお祭りにも参加している。保育園との交流もあり運動会に呼ばれたり、また前に流れる小川に棲んでいる鯉に餌を与えたりと地域に溶け込んだ生活が窺える。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で行い、外部評価の結果は全て開示して指摘された要改善項目については改善への取り組みが行われてサービスの質の向上に真剣に取り組んでいる。		自己評価、外部評価、運営推進会議等で指摘された項目について、毎月の全体会議で取り組み状況を報告し、検討されることを今後とも着実に継続される事を望みたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市高齢福祉課、町代表者、民生委員、家族の会、家族代表のメンバーで、2ヵ月毎に着実に運営推進会議を開催して意見やアイデアを貰いサービスの向上に取り組んでいる。		今後は運営推進会議の内容の更なるレベルアップを図ると共に、提案された事項を着実に実行されることを望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からは定期的に介護相談員の来所があり、依頼されたキャラバンメイトの研修の受け入れや中学生、高校生の体験学習の受け入れ、またホームヘルパーの研修も受け入れている。		市が開催している地域における認知症ケアの理解や啓発活動の勉強会にも参加され、更には地域での啓発活動にこの施設を提供されることも期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回以上は各家族が来所されるので、その時に入所者の現状を報告し、また随時電話、パソコンメール等で報告し広報も送っている。	○	現在の言葉による報告では忘れることもあり、また印象も弱いので、毎月家族の人には「健康便り」を、また「すいれん村からのお便り」を家族の人や地域の関係者、市の関係者に配布されることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問された時や、家族会、運営推進会議の時に意見や苦情を聞きだす努力をされている。また何でも言って貰えるような雰囲気づくりに留意されている。更に市の福祉課に苦情等の申し立てが出来る事を重要事項説明書に記載している。		春夏の祭りに参加した家族から意見を貰っておられるが、今後も家族から無記名のアンケートによる意見を求める等の工夫もして更に積極的に運営に反映される事を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の事業所間の異動は極力行なわない方針であり、離職防止には休憩場所も配慮してストレス発散に努めるなど配慮している。止むを得ず異動する場合は引き継ぎ期間を充分とり、管理者がフォローして利用者への影響が出ないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の全体会議で介護の実践、認知症の理解をして貰う教育指導をしてレポートを提出し、また県・市が主催する研修会に参加し全体会議の席上で発表している。		個人別育成目標を年間計画としてキチッと組み込み、資格取得の条件を満たした職員には積極的に資格取得への応援をされることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内の協議会での勉強会や同業者による管理職交流会が3ヵ月毎に開催されており、これに参加して得た情報を参考にしてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームの職員が主体となって、同じ敷地内のデイサービスにも通って貰い、またショートステイも経験して貰うなどのお世話をし馴染みを深め、その上で職員が自宅を訪問し安心と納得を確認してサービスを利用して貰っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意な料理、漬物、畑仕事、裁縫等を一緒に楽しく行っており、料理については職員が教えて貰うことが多く、共に支えあう微笑ましい姿がみられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活で本人が発する言葉や態度から何を望んでいるのか、何をしたいのかを理解することに努め、それを職員が共有し、本人にとって最良と思われることを実施している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族と話し合いその情報や思いを反映するために全体会議で話し合い、その内容を織り込んだ介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的(3カ月毎)に見直されており、その上で毎日本人の心身の状況や生活状況の変化を観察して、気付いたことはその都度計画書に追加記入しておいて介護計画の見直しに利用されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 ^の 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所は医療連携体制加算事業所として、日常の健康管理面や状態悪化時の医療機関との連携対応において安心して任せられる環境にある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は家族同行となっているが家族の要望があれば職員も同行している。また契約医院である小西医院から定期的に往診をうけている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族、職員、医者と繰り返し話し合いを行い終末期までの取り組みを行う方針が共有されている。この方針は重要事項説明書に明記されており、職員も一人ひとりが終末期までの取り組みに熱意を持っている。		事業所では容態の急変や重度ケアの経験はされているが、終末期への取り組みはこれからで、今後終末期ケアについて更なる研修をされることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	やさしい言葉かけに留意し、職員間では利用者名はイニシャルで呼びプライバシーの配慮に心がけている。また記録物は専用の棚に保管し情報漏えい防止に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人のその日の体調に配慮しながら本人ペースを大事にして、買い物、犬の散歩、畑の作業、室内の遊びなど希望に合わせて行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近所の人から季節の野菜果物の差し入れがあり、利用者は好みに合わせた調理を職員と一緒にいき、共に楽しく食事をして、後片付けも一緒に行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	男性利用者には男性職員が、女性利用者には女性職員が介助して利用者が希望する日、時間に入浴できるよう対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各人の能力を発揮して貰える様に季節の野菜の漬物作り、畑仕事、犬の世話、庭の手入れ、裁縫、歌を歌うなど得意なものが行われ喜びや楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	各人の希望を聞いて犬との散歩、バラ公園、美術館、レストラン、買い物等体調に合わせて外出できるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけることの弊害を理解しており、日中玄関には鍵をかけず、天気の良い日は網戸で見守りをされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルを整備し避難通路も確保されており、9月には自治会の避難訓練に参加して消防署からの講評ももらった。		自治会の協力が継続して貰える様に働きかけられることを望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員に調理師がおられ1日の栄養バランスの調節をして貰い、水分摂取量も午前10時と午後3時に把握しておやつ等でコントロールされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の中央に台所があり、ご飯の炊けるにおい、おかずの煮えるにおい、茶碗を洗う音など、すべてが家庭の雰囲気そのものとなっている、また玄関、居間、食堂に季節の花を生けて季節感を取り入れるなどの工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て使い慣れた家具、寝台、蛍光灯等を持ってきてもらい、家族の写真も飾り家庭と同じ雰囲気居心地良く過ごせるように配慮されている。		